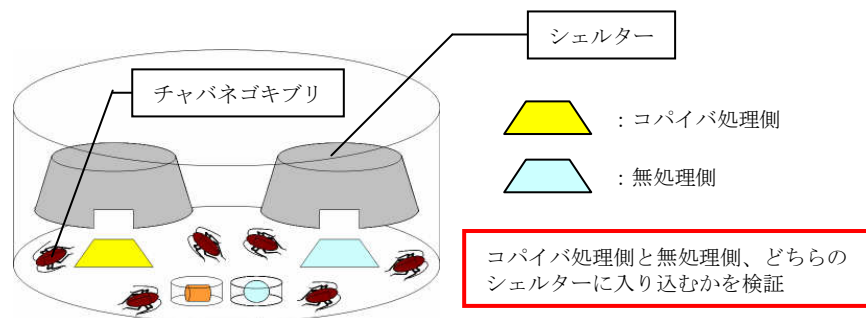


各種昆虫に対するコパイバオイルの忌避効果①

チャバネゴキブリ

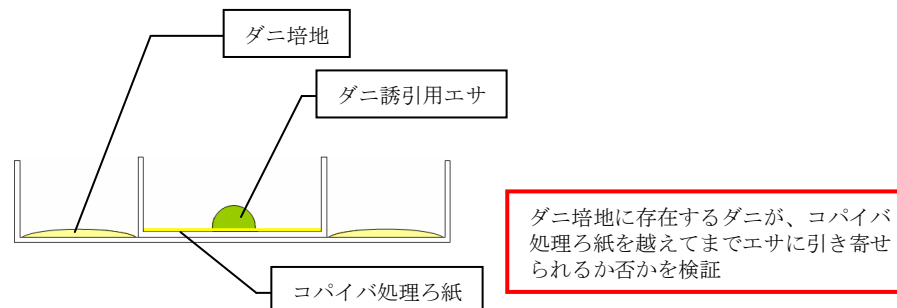
都会の飲食店、デパート食品売場、オフィスビルなど、その発生場所は多岐に及び、放置すれば発生数も極めて多くなる。
一般食品や書籍への加害のほか、病原菌を媒介するといった側面も持つ。



1~2%の濃度で80%以上の忌避効果を確認

ヤケヒョウヒダニ

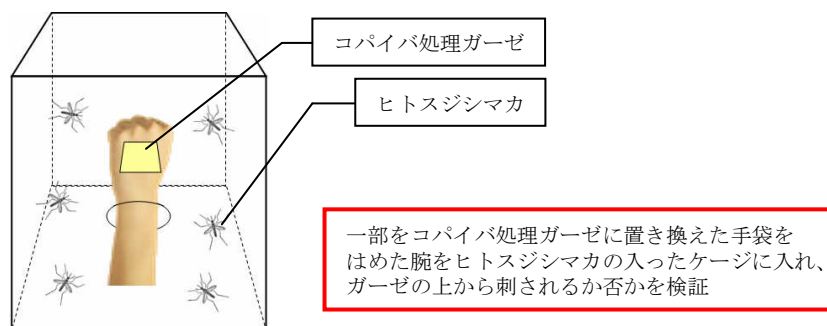
人の垢やフケ、塵の中の有機物をエサとし、夏場に多く見られる。生体だけでなく、死骸、糞、脱皮殻などがアレルギーの原因（アレルゲン）となり、気管支喘息や鼻炎、結膜炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患を生じさせる。



1%の濃度で80%以上、3%の濃度で90%以上の忌避効果を確認

ヒトスジシマカ

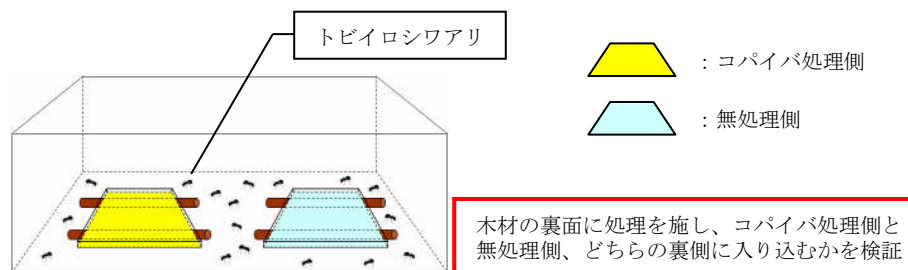
吸血性の蚊として最も一般的な蚊の一つで、春から秋にかけて多く見られる。
デング熱や西ナイル熱等の感染症を媒介することもある。



同じ濃度において、蚊に対する忌避剤として有名なDEETよりも高い忌避効果と持続性を確認

トビイロシワアリ

一般的なアリの一つ。草地などの開けた場所に生息し、石下などに営巣する。
雑食性で、蜜類・肉類のほか、種子も好んで集める。

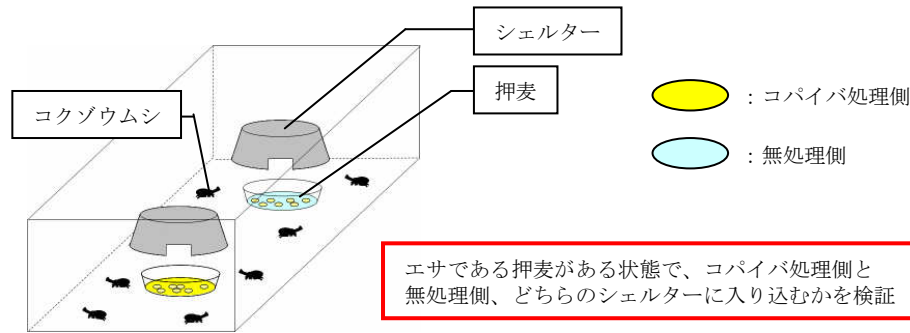


1%の濃度で80%以上の忌避効果を確認

各種昆虫に対するコパイバオイルの忌避効果②

コクゾウムシ

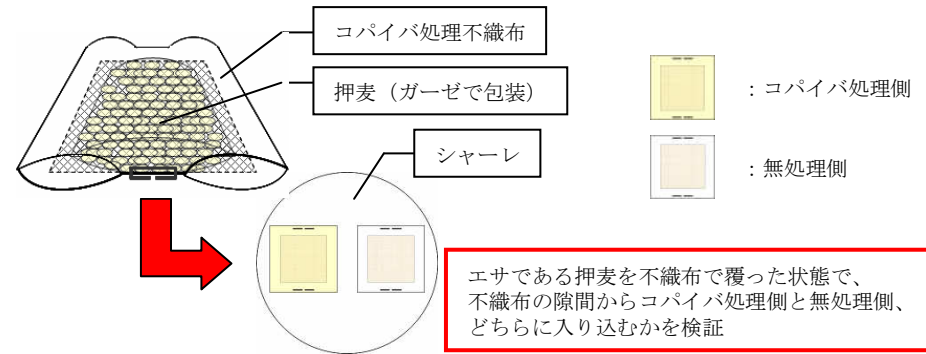
世界的な貯蔵害虫として知られ、その名のとおり穀類（コメ・ムギ・トウモロコシなどの各種イネ科植物をはじめ、デンプンを用いた加工品）を食害する。近年は穀物の輸入の際に紛れて入り込み、加工工場や食品貯蔵庫で見つかるケースが多い。



1~2%の濃度において80%以上の忌避効果を確認

ノシメマダラメイガ

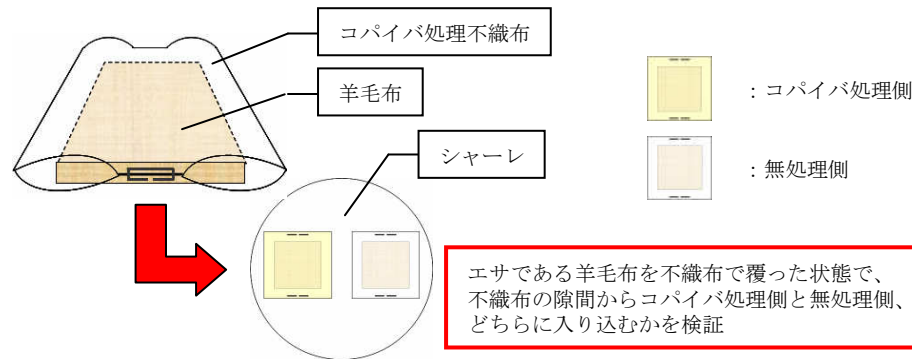
夏にかけての高温多湿時に多く見られ、植物油脂が豊富な種子を食害する。主食である稲（米）を食い荒らす事から、「米食い虫」とも呼ばれる。



コパイバオイル配合の自社製品「ムシクローズ・エアゾール」を用いた試験において、70%以上の忌避効果を確認

ヒメカツオブシムシ

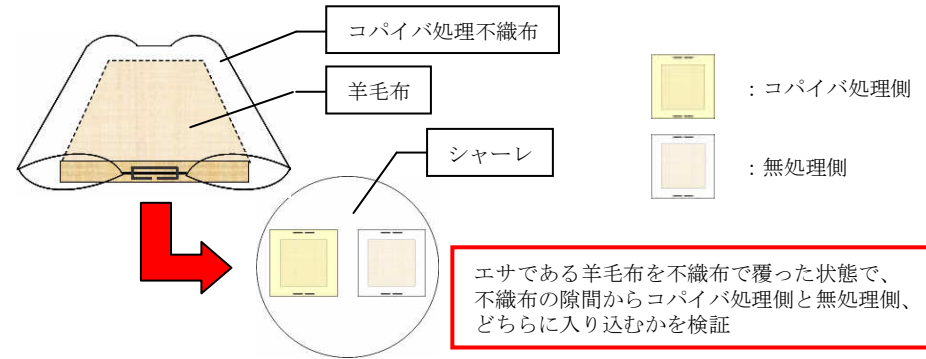
全国に広く分布し、絹織物や毛織物、羽毛、皮革などの衣料繊維からナイロンなどの化学繊維や綿など、幅広く食害する。そのほか、蚕繭、絹織物、乾物などの乾燥食品、ペットフードなども食害する。



コパイバオイル配合の自社製品「ムシクローズ・エアゾール」を用いた試験において、80%以上の忌避効果を確認

コイガ

全国に分布し、毛織物や毛皮、羽毛、動物標本、魚粉等を食害する。食害を受けた各種繊維が、幼虫の糞や吐糸によって汚染される事もある。

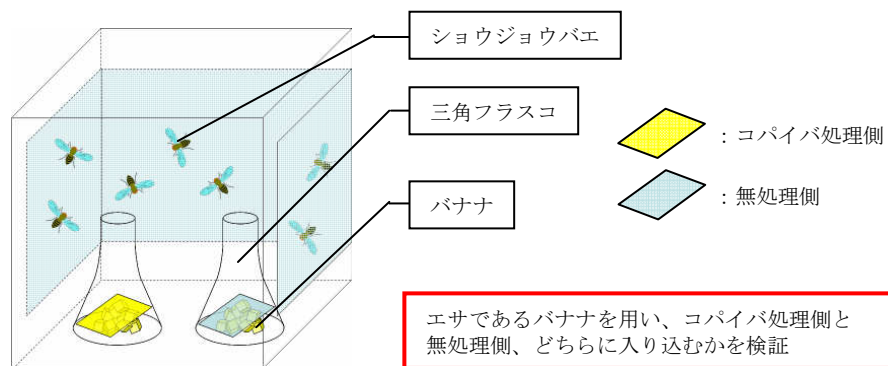


コパイバオイル配合の自社製品「ムシクローズ・エアゾール」を用いた試験において、80%以上の忌避効果を確認

各種昆虫に対するコパイバオイルの忌避効果③

ショウジョウバエ

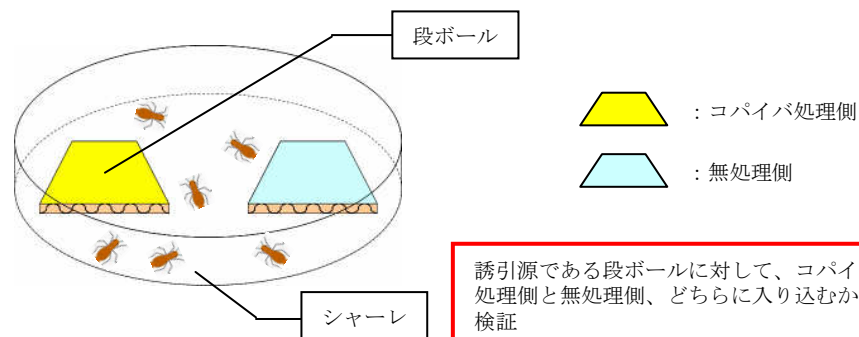
世界各地の温暖な地域に生息する。人を刺したり、伝染病を媒介するといった被害はないが、食品に集まるが故に飲食店や食品工場等で問題視されている。



5%の濃度で80%以上の忌避効果を確認

チャタテムシ

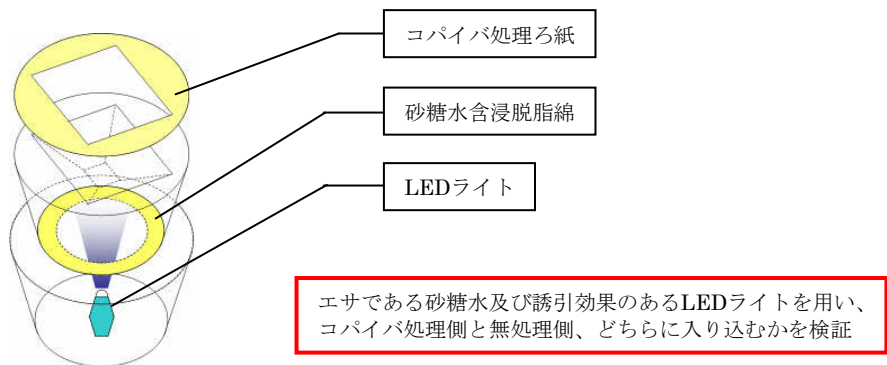
食品工場・医薬品工場、一般家屋に見られ、穀物粉などの貯蔵食品だけでなく、動物・植物標本なども加害する。書籍の糊や食品等に発生したカビを食べると繁殖が高まるといわれ、多湿な環境を好む。



コパイバオイル配合の自社製品「ムシクロズ・エアゾール」を用いた試験において、80%以上の忌避効果を確認

チョウバエ

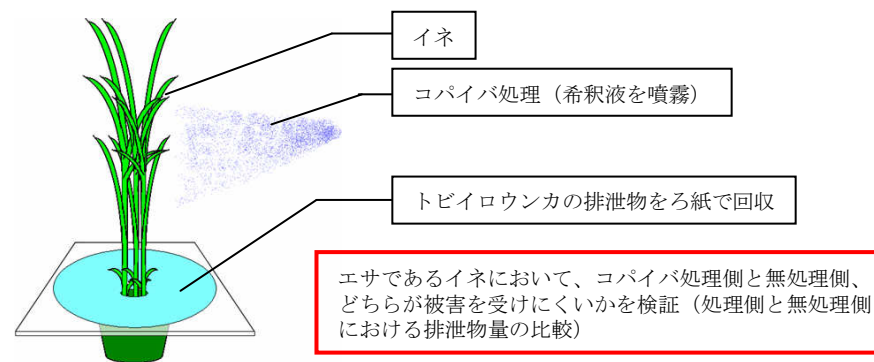
集合住宅や飲食店、ビルの浄化槽、トイレの貯水槽などから発生し、不快害虫として問題となっている。また、幼虫が人の泌尿生殖器、消化器などに迷入してハエ症を引き起こすケースもある。



5%の濃度で80%以上の忌避効果を確認

トビイロウンカ

イネを食害する害虫で、日本において発生するものは中国大陸からの飛来が原因である。ひどい場合には田んぼ全体が枯れてしまう事もある。



1%の濃度で70%以上の忌避効果を確認